

# 多面的機能支払交付金 活動組織へのインタビュー

～活動断念から10年後の再開～



## 1. 組織の概要

近家活動組織は、宇和島市の南に位置する旧津島町で活動する組織である。平成3年度から平成8年度には、土地改良総合整備事業 近家地区として、23.6haのほ場整備を行っており、現在活動を行う対象農用地は、水田21.2haと普通畑2.2haである。令和4年度から活動を再開したため、代表の濱田翼さんにインタビューに伺った。

## 2. 活動断念から活動の再開

近家活動組織は、平成19年から平成23年の期間、多面的機能支払の前身である、農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいたが、地域の高齢化や担い手不足もあり、活動を断念したという。しかし、その結果、地域では徐々に水路の泥上げ、農道及びため池も草刈り等地域資源の基礎的な保全活動にも支障が出てきた。その中で、「もう一度地域全体で、地域資源を守っていく、受け継いでいくためには、多面的機能支払交付金を活用することが必要と感じた」と代表の濱田さんは語る。「やるなら、地域全員を巻き込んでいこう」と強く思い、一軒一軒説得に回り、組織の復活のため奔走した。



インタビュー風景（左手前：濱田さん）



活動写真

## 3. 活動再開を経て感じること

「問題の解決がしやすくなった。この交付金はとてもありがたい」と濱田さんは言う。続けて、「交付金をもらえるようになり予算的にも余裕ができた。草刈りや泥上げ等の活動の際には、日当をしっかり支払うことができるようになった。そうすると、人が集まってくる。人が集まると、問題や困っていることについて情報を共有し、その解決に向けて話をするができる。これがとても良かったと思う。また、メンバーも増えて、書類の作成や、ラジコン草刈り機、ドローンを使いこなす若者、適材適所で頑張ってくれている」と活動の再開にうれしそうな顔を浮かべる。



偶然見つけ購入した  
代表の濱田さんのハマみかん

## 4. 今後の展開

現在は、農地維持支払のみの活動となっているが、水路の老朽化も著しいことから、資源向上支払（共同・長寿命化）にも取り組んでいくため、宇和島市に相談している。また、将来的には地域の子供たちも巻き込みたいと、他のイベントにも見学に行ったこともある熱心な濱田さん。「僕は、土台だけ作って、早く違う人に代表を任せたいです。他にももっと違うことも進めてきたいから。だからいろんな人に声をかけています。」と笑いながら語る姿がとても頼もしく感じた。